

NPO 法人ピュアコスモ主催

平成 28 年度「高機能自閉症スペクトラムのある若者とその保護者のための連続講座」 報告書

平成 28 年度 NPO 法人ピュアコスモでは、「大人に向けて」をテーマに、高校生以上の当事者に「キャリアアップ講座～ひとつ上の自分を目指そう」のテーマで、「ひとつ上の『気づかいスキル』と『身だしなみスキル』」を実施しました。また、保護者の方へ「大人に向けて」に関する「仕事、お金、異性とのつきあい」について考える講座（全 5 回、表 1 参照）を企画・実施しました。

今年度の保護者の参加人数は、社会人の保護者 6 名、大学生（専門学校）等の保護者 7 名、高校生の保護者 7 名、合計 20 名でした。なお、本講座は、井澤信三研究室（兵庫教育大学大学院）の大学院生と特別支援学校教員等がスタッフとして参加し、企画・運営を担当しました。

表1 日程とテーマ・主な内容について

	日にち	テーマ	内容
1回目	11月27日(日)	「大人に向けて」	「大人に向けて」 講師：井澤信三氏(兵庫教育大学)
2回目	12月11日(日)	「お仕事のこと」	「発達障害のある成人の就労支援」 講師：池田浩之氏(兵庫教育大学・JSN新大阪アネックス)
3回目	1月22日(日)	「お金のこと」	「自立した生活を送るために必要な金銭管理について ～上手にお金を使えるために～」 講師：鹿野佐代子氏(大阪府障害者福祉事業団職員)
4回目	2月26日(日)	「異性とのつきあい」	「異性とのつきあい」 講師：武田博子氏(県立特別支援学校)
5回目	3月12日(日)	「先輩の保護者の話を聞こう」	「先輩保護者と話をしよう」 講師：ピュアコスモの保護者の方3名

< 第 1 回「大人に向けて」 >

第 1 回では、兵庫教育大学の井澤信三氏より「大人に向けて」と題し、最初に当事者向けの講座「キャリアアップ講座～ひとつ上の自分を目指そう～」の概要説明と、保護者向けの連続講座についての説明が行われました。保護者の連続講座では、大人になるその過程で直面することが予想されるいくつかの課題（働くこと、身辺自立に関すること、人とのつきあい方、自分のことへの理解、心理的・精神的な安定など）が挙げられました。また、それらは就労における課題とも共通しており、自分の特性と社会との折り合いをつけることの重要性も指摘しました。さらに、つまずきの例とその支援の例も紹介されました。支援のポイントとしては、①現実場面での支援と、②環境による支援（合理的配慮）を優先し、次の環境へとつなげていく努力の必要性が挙げられました。

お子さんの年齢ごとに、高校生グループ(A)(B)、大学生（専門学校）グループ(C)、社会人グループ(D)の4つのグループに分かれ、グループディスカッションを行いました。第1回では、自己紹介とともに、現在の状況と悩みについて意見を出し合いました。障害の告知や、障害者手帳を取るべきかどうかといった不安、対人関係上の課題等が出され、それぞれの年代で不安や悩みを共有し合いながら話し合いがなされました。

＜第2回「発達障害のある成人の就労支援」＞

第2回では、兵庫教育大学・JSN 新大阪アネックスの池田浩之氏より「発達障害のある成人の就労支援」と題し、発達障害のある成人の就労の現状から、就労支援の対象者、就労支援の具体についての講義がありました。また、ハローワークでの相談の流れや、ジョブコーチ支援、障害者職業センターでの支援、雇用助成制度など各支援や制度についての説明もなされました。それぞれの支援の中で、情報を収集し本人の困っていることの原因を考えていく「アセスメント」がとても重要であることを述べられていました。最後に、「問題解決の方法を知ろう」というテーマで、事例をもとに問題の所在とその解決方法についてグループ内で考え話し合う時間が設けられました。

グループディスカッションでは、就労に関するそれぞれのお子様の状況や疑問に思うことなどを出し合い、各グループから講師の先生へ質問を行いました。高校生や専門学生の保護者からは、就職に向けて今からできることは何かについてや、職業選択の中で、好きなことや趣味が職業に直接つながっていくのかについての質問が出されていました。一方、すでに就職している方の保護者からは、ジョブコーチとの関わり方や金銭管理(お給料の使い方や貯金の仕方など)についての質問等が出ていました。講師の先生も述べていたように、各支援機関にどうつなげていくかという相談よりも、各機関の利用の実際に関する質問が多く出されていたように感じました。

＜第3回「自立した生活を送るために必要な金銭管理について

～上手にお金を使えるために～」＞

第3回では、「自立した生活を送るために必要な金銭管理について～上手にお金を使えるために～」と題して、大阪府障害者福祉事業団の鹿野佐代子氏より、お金の役割（①ものとお金を交換できること、②使うときまで保存できること、③AとBの商品を値段で比較できること）についてのお話しをはじめ、金銭管理に関する実践例についてもお話しいただきました。その中で、以前までは、生活の中にお金について考えるきっかけが多くあったのに対し、現在では、生活の利便性が高まり「見えないお金」の存在が多くあることをお話しされていました。また、実践例の中では、対象児者の年齢に応じた取り組みの必要性や、与えられたお小遣いをどう振り分けていくか、その過程でそれぞれの意思を尊重することの重要性についてお話しされていました。

グループディスカッションでは、金銭管理に関するそれぞれの状況をお話しいただきました。意見としては、お金の使い方に関する理解が不十分で、自分からお金を使いたがらないことや、親がどうしても関与しないといけない部分があることなどが挙げられていました。ディスカッション後の鹿野先生のお話しでは、金銭管理に関する一つひとつの出来事に目を向けるのではなく、収入＜支出になっているその状況をおさえることが重要であるとおっしゃられていました。また、一度お金がその人のもとへわたったら、そのお金はその人のものになるという認識が、障害の有無にかかわらず重要であると述べられていました。

＜第4回「異性とのつきあい」＞

第4回では、「異性とのつきあい」と題し、県立特別支援学校の武田博子氏からお話しをいただきました。はじめに、「異性」についてのお話しがあり、「つきあう」に関する意識の変化やちがい（親世代の感覚と若者の感覚）についてもご紹介されました。また、DVD視聴もあり、自分と人との距離のとり方や、その距離によって関わり方も異なることについて、絵や図、劇を通してお話しいただきました。さらに、最近急増しているネット被害やデート商法に遭わないためのポイントについてもお話しいただきました。

グループディスカッションでは、人との距離を取りすぎていることや、反対に近すぎることもあること、異性とのつきあいを考える以前に人とのつきあいに課題があるとの意見もありました。また、つきあいに関するルールを教えてもらっても、言葉が先行してしまい、実際のルールの理解に至らなかったり、そのルールを人に強要してしまったりすることなどもお話しされてきました。ディスカッション後の武田先生のお話しでは、家庭でできる異性とのつきあいに関する支援のポイントの一つとして、「〇〇はダメなことだから」と伝えるのではなく、成人式や誕生日などのイベントを通して、「〇歳になったから、△△ができるようになるうね」などとルールづくりをしていくといいのではないかと述べられていました。

＜第5回「先輩保護者と話をしよう」＞

最終回である第5回では、「先輩保護者と話をしよう」と題し、ピュアコスモの保護者の方3名に、診断を受けた時期やその時の思い、現在のお子さんの状況、これまでの経過（学校での様子など）、就労に向けた支援の内容や経過、現在の不安や悩みなどをお話しいただきました。

グループディスカッションでは、就労支援を受ける時期やその窓口に関する質問、また余暇の過ごし方に関する質問、年金はどのような手続きを踏んでもらえるようになるのか、障害者手帳は取得すべきかなどの意見が出されてきました。また、今回のような講座を受けるにはどうすればいいかなども質問として出されてきました。同

じような道を通ってこられた保護者の方のお話しということもあり、とても興味深くお話しを聞いておられ、質問もたくさん出されていました。また、会終了後もグループ内の保護者同士で「これからも頑張っていこうね」などと声をかけあっているような様子もみられました。

最後に講座全体のアンケートを行い、全講座を終了しました。

各回を通して、専門機関の方や、先輩保護者など様々な立場の方からの情報が得られ、これからの生活や就労、「大人に向けて」への準備に大変有意義な講座になったことと考えられます。

この事業は、**社会福祉法人 兵庫県共同募金会 「社会福祉関係団体・ボランティア団体・NPO支援事業」**の助成により行われました。